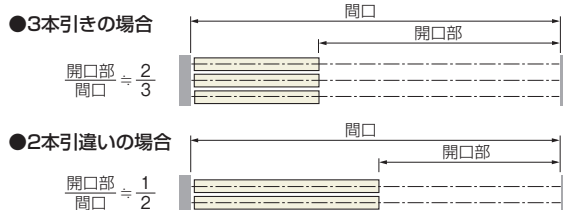


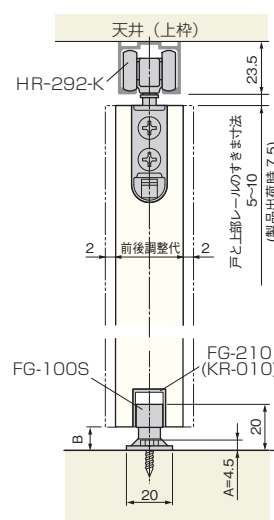
**Q7** 3本引き引戸で、引戸2枚分を開口できるものがあれば、教えてください。

**A7** ご質問のように、同じ間口でも2本引き引戸より3本引き引戸にした方が、引戸2枚分を開口部として広くとれます。最近では、高齢者対応住宅の車椅子利用を考慮して、引戸でも開口部を広くとれるものを望まれる方が多くなってきました。このようなケースのために、弊社では車椅子の利用に適した下レールなしの「連動引戸システム金具」を用意しています。



**Q8** HRシステム引戸用で(下部ガイドにはFG-100Sを使用)、674ページの設計ガイド「金具の納まり参考図」中の「戸の高さ寸法の求め方」によると、上下の隙間合計寸法(上部レールと戸の隙間+下部隙間)は20.5mm必要となりますが、もっと少なくすることはできませんか?

**A8** できます。設計ガイドにおける「戸の高さ寸法の求め方」は、上部吊り車が有している上下調整範囲をフルに活用できることを条件に式を設定しています。もし、上部隙間を最大までとる必要がないとお考えの場合は(すなわち、調整代をそんなに必要としない)、その分隙間を少なくすることができます。ただし、調整代は現場での思わぬ寸法誤差やたわみなどに対応できるようにとの考えから設定されていますので、調整代が少なくなる程その対応範囲が少なくなるということは予めご承知ください。



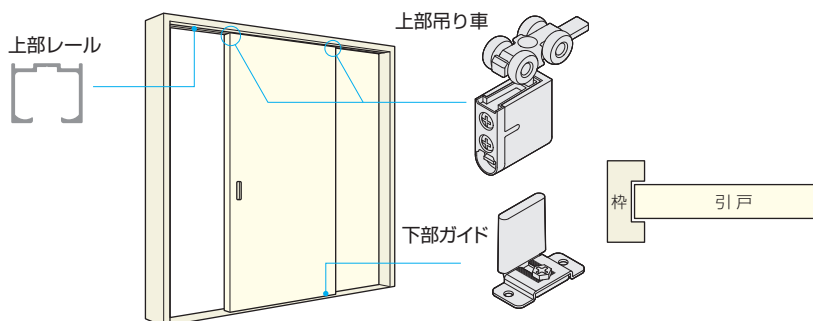
●戸の高さ寸法の求め方

戸の高さ=枠の内寸高さ-23.5mm(上部レール)-10mm(戸と上部レールのすきま寸法範囲)-3mm\* -A

※上式で戸の高さを求めることにより、「戸と上部レールのすきま寸法範囲」で戸の上下調整ができます。  
 ※上式の3mm\*は、戸を下に調整した際、戸を下部ガイドに接触させないための逃げ寸法です。

**Q9** 上吊式引戸の下側は、床に取付けた下部ガイドのみで振れを抑えるのでしょうか? 建具が閉まった状態で、下部ガイドが無い方の端に力が加わった場合(人が戸に寄りかかる、ぶつかる)のぐらつきはどうでしょうか? また補助金具はありますか?

**A9** 上吊式引戸の場合、引戸の下側は床に取付けた下部ガイドのみで引戸をガイドすることになります。そのため床に溝やレールを施工する必要が無く、床面をフラットにできることがメリットの一つになっています。戸を閉めた時、下部ガイドが無い方の戸端部に力が加わると、戸は確かにぐらつきます。戸に人が寄りかかったり、ぶつかったりするような大きな力がかかれば、金具や引戸が壊れる可能性もあります。特にガラスを嵌め込んである引戸では怪我することもあるので、アクリルなどに替えたほうが良いでしょう。それでも多くの方が、床面をフラットにできるメリットの方を優先されて、上吊式引戸を採用されています。ぐらつきを防ぐ補助金具として振止(276~278ページ)がありますが、下図のように枠の中に引戸を入れてしまうことで戸のぐらつきを防ぐこともできます。



- ドア錠 1
- 丁番 2
- スライド丁番 3
- 開き戸金具 4
- 引戸錠 5
- 引戸金具 6
- 上吊式引戸金具 7
- 移動間仕切金具 8
- 折戸金具 9
- 室内用アルミ建具 10
- 取手・引手 11
- スライドレールワイヤーバスケット 12
- 収納・吊金具 13
- その他の家具金物 14
- 物干金具・諸金具 15
- 真鍮アンティーク 16
- 設計施工ガイド
- 会社案内